

挑む!

京都大学特定助教

もなみ
リングホーファー萌奈美さん(33)

揺れ動く馬の心を知りたくて

今から6千年ほど前に家畜化が始まったとされる馬。頭が良く、人の指示を理解するが、本当はどんなことを考えているのか。2015年から「馬の心を探る研究」に取り組んでいる。

きっかけは中学生時代。父と同じオーストリア人で、動物行動学者のコンラート・ローレンツの著書を読み、動物研究に憧れを抱いた。

16年2月、ポルトガルのアルガ山に生息する馬の調査を始めた。それまで飼育下の馬しか見たことがなかつ

奈良市出身。麻布大卒。東京大大学院ではツバメの生態を研究。2012年に乗馬クラブに就職。15年に再び研究者に戻り、17年10月から京大特定助教。

た。自由で平和な馬たちの姿を目の当たりにし、その社会性に驚いた。

群れは、足をけがした個体のペースに合わせて動く。メスは、自分の子ではない子馬も守ろうとするという。

メスが自ら群れを出て別のオスの群れにお試しで合流するなど、メス主導の恋愛事情も見えてきた。体の模様などで200頭以上の馬を見分ける。ドローンなども使い、個体同士の距離を測りながら社会行動を調べている。

乗馬クラブ「クレイン大阪」(大阪府羽曳野市)に毎週通い、馬同士や馬と人のコミュニケーションについても研究中だ。「馬は興奮しやすいという印象を持つ人もいます。でも、好奇心と恐怖心で揺れ動く馬の心を正しく知れば、もっと身近な動物と感じてもらえるはず」

文・後藤一也 写真・滝沢美穂子

記者から

馬の認知科学の研究は、欧州が一步先を行くという。世界に負けない研究者になって欲しい。